

各分科会担当者から…

【第1分科会】より

私たち印西市民は、印旛沼と手賀沼の水源に暮らしています。けれどもほとんどの市民は、川や沼の見えない場所で日常を送っているため、水循環に思いを馳せることがむずかしいのです。水環境を守るために、暮らしの中で自分たちができることを実行することはもちろん、その努力が個人や小集水域でわかるシステムを作ることが必要です。

また、水源涵養の樹林地をはじめとする里山を、農林業とともに守るためには、その恵みを享受する市民の役割を、今一度考えて、それを実践して行くためのシステム作りが緊急の課題です。子どもたちに生物多様性豊かな里山環境を体験してもらう場を作り、次世代に里山の大切さを知らせる、里山保全活動を市民にPRし、参加を求めるほか、里山保全の活動団体が連携することも必要でしょう。命のにぎわう里山があってこそ、命めぐる豊かな水辺の環境がなりたつのです。

【第2分科会】より

印旛沼周辺11市町村を印旛地域とくくると、2005年統計では、約2000ha弱、11.8%が耕作放棄農地。5年前より250ha増加し、四街道市のように都市部に近づけばその分、放棄農地の割合が25%と増えていく傾向がある。耕作放棄された谷津田などは、景観の悪化、自然環境の悪化、ゴミ投棄等社会的環境の悪化を招いている。「失われていく農地に地域は何ができるか」をテーマに、参加者全員で意見を交換した。すでに取り組まれている3事例(佐倉2箇所、印西1箇所)の報告があり、また、千葉県や国による遊休農地解消のための施策が紹介された。まとめとしてく遊休農地活用検討チームの設置とチームによる取り組み支援を提言内容としてまとめて終了した。

【第3分科会】より

今私たちは情報過多の中で、何が水環境にやさしいか判断するのは困難な状況である。食品偽装が発覚している折、企業の言うことを鵜呑みにはできない。テレビでCMをしているから安全とは限らない。何が水環境に負荷を与えているのか、どうすれば印旛沼の水質汚濁を軽減できるか、正しい情報を入手しなければいけない。その上で一人一人が意識を変革する必要がある。そのためにも県に情報提供をお願いしたい。そしてそれを実践していく上で、励みになるように「努力簿」をつける。県のサイトから「見ためし行動実行日記」をダウンロードできる。継続して取り組みたい。そして具体的に汚れを出さない方法を考えよう。例えば、米のとぎ汁を流さない方法としては、農家など自家精米の方は庭に流す。購入するなら無洗米にする。中でも肌めかで肌めかをはぎ取る「BG米」をもっと普及させ、無洗米の精米方法の表示徹底をメーカーに働きかける。以上が提案された。

【第4分科会】より

印西市においては手賀沼に関しての活動が主であったのが、今回の事業に直面して印旛沼とのかかわりの重要性を認識し、水遊び泳げる水辺にするためには、印旛沼流域に関する市民団体活動とともに、1人でも多くの住民に現況を知ってもらい浄化運動を進めるべきである。そのためにも、関係市町村のまちまわり会場の意義は大きいと思います。ただ、今回は地元参加者が少なかったのが残念でした。

一方、大きな事業の展開のためには、県・国の財政的援助の大なることを平素から感じております。

【わいわい会議準備会メンバー（順不同）】

(財)印旛沼環境基金、印旛沼土地改良区、NPO法人印旛沼広域環境研究会、ちば市ネイチャーゲームの会、環境パートナーシップちば、下泉・森のサミット、谷当グリーンクラブ、NPO法人八千代オイコス、NPO法人とんぼエコオフィス、NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、印旛沼を考える女性交流会、フレンドリープラザ運営協議会環境生活部、里山の会ECOMO、しろい環境塾、NPO法人まちづくりサポートひと・まち倶楽部、酒々井町婦人会、栄町廃棄物減量等推進審議会、印西市婦人会、北総里山クラブ、印西の水と暮らしを考える会、印旛沼流域水循環健全化会議

【事務局】 千葉県県土整備部河川環境課・環境生活部水質保全課

【連絡先】 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1 Tel.043-223-3155 Fax.043-221-1950
kawakan2@mz.pref.chiba.lg.jp (千葉県県土整備部河川環境課)

印旛沼 in いんざい わいわい会議

印ざい発➡印ば沼を考える！

・・・平成20年度 開催報告書・・・

平成20年11月16日(日)
印西市文化ホール
にて開催しました!!



☆印旛沼の現状と緊急行動計画☆

印旛沼は、流域の土地利用の変化や生活スタイル等の変化により水質が悪化するとともに、湧水や川の水量の減少、多様な生物が生息する水辺地の減少、洪水の発生などの問題も生じています。

そこで、千葉県では平成16年2月に「恵み豊かな印旛沼の再生」を目指し、できることから実行に移し、全員でとり組むため『印旛沼流域水循環健全化 緊急行動計画』を策定しました。



緊急行動計画の目標

この計画について、みなさんに知っていただき、一緒に行動していくため、市民の皆さんと意見交換会を開催しています。

☆印旛沼わいわい会議の開催☆

この計画の策定後、印旛沼の再生に向けて皆が一緒に行動していくため、平成16年度から市民・NPOの方々と行政が一堂に会して、文字通り「わいわい」話し合う「わいわい会議」を開催しています。

【過去の開催状況】

- ・平成16年度：平成16年11月10日 佐倉市中央公民館
- ・平成17年度：平成17年10月25日 八街市中央公民館、平成17年11月5日 八千代市役所
- ・平成18年度：平成18年10月27日 船橋市北部公民館、平成18年11月9日 成田国際文化会館
- ・平成19年度：平成19年11月25日 千葉市文化交流プラザ

☆今年のわいわい会議の目的☆

- (1) 印旛沼の水環境をよりよくするために、みんな※でわいわい話し合おう。
- (2) 健全化会議への提言をしよう。

※みんな＝流域の市民や行政ほか全ての主体

主催：印旛沼流域水循環健全化会議





印旛沼 in いんざい わいわい会議

印ざい発⇒印ば沼を考える！

日 時：平成20年11月16日(日)
場 所：印西市文化ホール
参加数：約150名(総参加数約200名)



【第1分科会】

「里山から里沼へ」

印旛沼の水をきれいにするためには、流域の水源涵養林を守り、水を汚さない生活や農業が大切です。生物多様性ちば県戦略で里沼と定義されている印旛沼の命のにぎわいは、流域の里山と自然があってこそ、なりたつものです。

印旛沼流域の里山を守るため、私たち市民にできることを話し合います。樹林地や農業を守るために、私たち市民に何ができるでしょうか？
ただ、里山を楽しむだけの生活から、一歩踏み出してみませんか。

《第1分科会のまとめ》

- ①小集水域単位での環境保全が、沼の水質改善にどのように貢献するのか、可視化するシステム作り
- ②里山での原体験、里山保全に熱心に取り組む人々と、若者、子どもの交流
- ③里山保全のPRのため、団体が連携する



【第2分科会】

「失われていく農地に対して地域は何ができるか」

年々進行している遊休農地への対策に視点を置き、先進事例を聞きながら対応策に向けての意見交換をします。印旛沼周辺11市町村を印旛地域とくると、2005年統計では、約2000ha弱、11.8%が耕作放棄農地です。この分科会をきっかけとして、実践を希望する団体に対しては、関係組織が計画づくりと実践活動を応援していきます。

《第2分科会のまとめ》

- ①地域を支える農業（バラバラ地域を農業が結ぶ）
- ②人と農地のマッチングを小さい単位の農業も推進
- ③遊休農地対策チーム設置とチームによる取り組み支援を



【第3分科会】

「印旛沼とこれからの私たちの暮らし方」

印旛沼を汚す主な原因の一つは、家庭から出る生活排水といわれています。みなさんに私たち生活者が加害者であることを今一度考えていただくことから始めたいと思います。

印旛沼の水質汚濁を減らすために、これからの私たちの暮らし方を話し合っていきます。

《第3分科会のまとめ》

- ①正しい情報で一人一人の意識変革をめざそう
- ②汚れを出さない方法を考えよう
- ③励みになるように、努力簿をつけよう



【第4分科会】

「遊べる水辺に・・・」

いま、川や沼など水と親しめる場が少ないのが現状です。水辺で遊び、生きものと触れ合うことは、水を大切にしたい気持ちを育むうえでとても大切なことです。

私たちにとって、“水辺”とは、一体、何か・・・？を暮らしや親水の観点から考え、皆さんと意見交換をし、最後に、では・・・！私たち一人一人は、何ができるのか？について考えます。

《第4分科会のまとめ》

- ①身近で水に触れられる場所造り
(環境学習の場、裸足で入れる遠浅)
(生き物のためのゾーン)
(入ってみたい・ふれてみたい・遊んでみたい…水辺づくり)



【事前キャンペーン】

わいわい会議への参加を促すと共に、「印旛沼再生」への取り組みをアピールしました。

日 時：平成20年11月4日(火)
場 所：ジョイフル本田千葉ニュータウン様、イオンモール千葉ニュータウン様、BIG HOP様



配布物(1,000set)
・わいわい会議チラシ
・エコたわし
・水切りネット
・堆肥

【プチわいわい会議 in さとやま】

谷田、武西の里山を見学した後、印旛沼流域の水系を守るため、また樹林地や農業を守るために何ができるかを話し合いました。

日 時：平成20年11月9日(日)
場 所：東京電機大学
参加数：約50名



【全体討論】

各分科会からの「まとめ」の報告、参加者からの意見・提案などを発表していただき「健全化会議への提言」をまとめました。

《いんざい会場からの提言》

- ・個人及び小集水域単位での環境保全が、沼の水質改善にどのように貢献するのか、可視化するシステム作り
- ・遊休農地対策チーム設置とチームによる取り組み支援を
- ・正しい情報で一人一人の意識変革をめざそう
- ・身近で水に触れられる場所造り



提言の授受